





**質問**  
 お寺の本堂の大きな木はどこから運ばれて来るのですか？  
 (北海道 小四 女子)

**答え**  
 お寺の本堂をよく観察してみるとたくさん

の木が使われていることがわかります。基本は太い柱が垂直に建っており、その柱を梁と呼ばれる横材でしっかりと固定する構造になっています。どの木を見ても皆さんが住んでいる家の中に使われている木よりも大きく太いものばかりです。一体どのようにして、この木材が山からお寺にやって来るのか、簡単にお話しいたします。

一般の住宅に使われている木材は人工の造林で育てられた木を使います。樹齢五十〜百年位の木が使われますが、お寺で使う太い木は樹齢三百年以上のもので使われます。そのほとんどが天然の森林の中にあります。木を切る専門の職人さんが営林署の許可をとり山に入り、木を育んだ山の神様に頭を下げながら一本一本丁寧に切り出されるのです。次に大木の小枝を全て切り落とし一本のまっすぐな木に仕立ててから、山から街へと運び出されます。

街に運ばれた大木は水分をたくさんふくんでいますので、先ず製材所で乾燥します。普通は二〜三年かけて風にさらした状態で自然乾燥しますが、どうしても急ぐ場合は大きな乾燥機を使い水分を取り除きます。木を

乾燥させる理由は、水分をたくさん含んだまま使うと、建て終わった後に木の表面にひび割れが出てくるからです。そうなるのと本堂の美観を損なうことになるので、しっかりと乾燥させるのです。

乾燥が終わると木の表面の皮をはぎ、木材の形を整える作業をします。経験豊富な職人さんによって、丸い柱や角ばった柱、太さ、長さを使う目的に合わせて

て調整します。木の表面の模様も柁目と板目の二種類があるので、この選択も大切な作業になります。また、小枝を切り落とした時に、幹の部分に楕円形の節が残ります。この節の無い木は「無節」と言って値段が高くなります。

このように山からお寺まで木が運ばれて来るまでには、たくさんの方たちのご苦労があるのです。



質問

うちはせまくて、お仏壇を置く場所がないので洋服ダンスの上うえに置いてますが、それでも大丈夫だいじょうぶですか。とても小さい仏壇ぶつだんですが、いいのですか。置く方角ほうかくはどこがいいのですか。

(京都 小六 男子)

答え

お仏壇ぶつだんについて気に

かけてくれてありがと

う。お仏壇ぶつだんを置く場所ばしょですが、

ダンスの上うえでも問題もんだいありません

よ。そこに置いて仏さまぶつやご先

祖そを拝おがみやすいのであれば、そ

れでいいです。

またお仏壇ぶつだんに大きおおさは関係かんけいあ

りません。いくらお仏壇ぶつだんが大きおお

くても全然ぜんぜんお世話せわをしなかつた

ら仏さまぶつも悲かなしまれるでしょう。

小さちいくても、おうちの人ひとが毎日まいにち

拜おがんでくれたら、仏さまぶつは喜よろこば

れます。

また置く方角ほうかくですが、極楽ごくらくが

あるのは西にしなので、西にしに向むかっ

て拜おがむように置くことができ

ら最高さいこうです。でも部屋へやの都合ごうごで

無理むりなら、どの方角ほうかくに置いて

結構けっこうです。お仏壇ぶつだんの置おいてある

ところが、極楽ごくらくのある西にしの方角ほうかく

と考かんがえたら良よいのです。本堂ほんどう

すよ。

あまり方角ほうかくは気きにしな

仏さまぶつを拜おがんでくださいね。

# お寺のマナー知ってる？

皆さんが佛寺ぶつじに行いった時に、守まもってほしいこと、気きをつけてほしいことを伝えていきますね。お寺ぶつじってどんなところだと思おもいますか。ちよつと近ちかよりにくい場所ばしょ、静しずかなところ、暗くらい場所ばしょ、楽しい場所ばしょ、お墓はかがある場所ばしょ、楽しい場所ばしょ、お墓はかがあつてこわいところ：

どこのお寺ぶつじにもご本尊ほんぞんと呼ばれる仏さまや菩薩ぼさつさまがおまつりされています。たとえば阿彌陀あみださま、お釈迦しゃかさま、観音菩薩くわんおんぼさつさまなどです。

ご本尊ほんぞんというのは、信仰しんこうの対象たいしょうとして本堂ほんどうの真ん中まんなかに安置あんちされてある仏さまのことをいいます。では本堂ほんどうにお参まいりしてみましよう。

本堂ほんどうに入はいったら大おお声こゑを出ださず、仏さまの前まえで背筋せすじはまっすぐにして、心静こゝろしずかに正座せいざしましょう。帽子ぼうしをかぶっていたなら脱ぬぎましょう。

そしてお数珠じゆずを手てにかけ手を合あわせましょう。ご本尊ほんぞんのお顔かおをよく見て、「南無阿彌陀仏なむあみだぶつ」と唱となえましょう。浄土宗じやうどしゆの場合ばあい「十念じゆねん」といって、「南無阿彌陀仏なむあみだぶつ」を十じゆぺんお唱となえして一いち礼れいし

ます。ご本尊ほんぞんが阿彌陀あみださまでなくても、「南無阿彌陀仏なむあみだぶつ」と唱となえてもいいですよ。

手を合あわすことを合掌がっしやうといいます。合掌がっしやうの仕方しほうは、両手りやうてをびつたりと胸むねの前まえで合あわせませう。この時とき45度の角度かくどで合あわせると、とても美しい姿すがたとなります。

手を合あわすことは仏さまと自分おんとが一体いつたいになった姿すがたです。とても落おち着きいた気持きもちになります。決して片手かたてで仏さまを拜おがまないでください。

浄土宗じやうどしゆのお数珠じゆずは二連にれんになっています。かけ方は図ずの通りで、親指おやゆびと人さし指ゆびの間あいだにかけて親指おやゆびの後ろうしろにたらしめます。合掌がっしやうしていない時は、指ゆびを入れてふり回まわしたりしないで、左手ひだりて首くびにかけてください。またお数珠じゆずはタミなどの上うへには置おかないで、机つくえや台だいの上うへに置おきましょう。またはお数珠じゆず入れいれにしまつてくだ

さい。お手洗てあらいに行くいくときはお数珠じゆずを外はずしていきましよう。



合掌の仕方と数珠のかけ方

